# 健康へのメッセージ シリーズ⑦⓪

## 過去の病気ではない結核

東陽病院　鈴木　健士 内科医師

光町のみなさんこんにちは。今回は最近よく新聞やテレビで集団感染で話題になっている結核についてお話ししたいと思います。

結核と言えば御年配の方にとっては以前は最も恐ろしい病気であったと思います。昭和初期までは有効な薬もなくたくさんの命を奪った、現在で言えばガンに近い存在であったと思われます。その後終戦の復興あたりを境に国民の栄養状態、衛生状態の改善や有効な抗結核薬が広く普及するに伴い、徐々に結核は治る病気となり死亡率は低下していきました。現在では死亡率は最も多かったときと比べて百分の一以下にまで減っています。ではなぜ今になって再びその結核にかかる方が増え、注目されているのでしょうか。

一つは先にお話しした結核の歴史と関係があります。結核は今ではその患者数が少ない病気となりました。ですから一般の方が結核菌と出会う機会は大変少なくなったのです。菌と会わなければ病気になる率は減るじゃないか、と思われるかも知れません。確かにそうなのですが、実は結核菌というのは体に入ったからといって必ず病気になるわけではありません。むしろ9割の方は病気にならないのです。ですから現在御高齢の方のほとんどは実はすでに結核菌と出会っているのです。しかし若年層の方は出会う機会がないためその免疫（菌に対する抵抗力）が不完全なのです。もちろん日本では法律でツベルクリン検査、BCG接種が義務づけられていますが、その免疫効果は残念ながら不完全なものです。つまり結核菌と初めて出会う免疫のない方が多くなったことが問題なのです。

もう一つには現在日本が迎えようとしている超高齢化社会があります。平均寿命が80歳という世界は過去にどこの国も経験したことがありません。高齢者の肺炎は症状が典型的でなく、治りにくいことが多いのですが、その高齢者の多い集団の中でどのような病気がどう拡がっていくのか、データが充分にないわけです。先にお話ししたように御高齢の方の多くは結核菌にすでに出会っているのですが、そういう方の一部に症状を出さずに結核菌が潜伏している方がいるのです。その方が他の病気になったりして免疫の力が弱くなったときに再び結核菌が息を吹き返すことがあります。ですから一度結核を経験した世代にも再び問題となることがあるのです。

しかし今度の結核の問題の背後に結核菌自体が強力になったとか、薬が効かなくなったという変化があるわけではありません。ですから大慌てすることはないと思います。しかし結核を過去のものとせず、充分に注意することが必要なのだということかと思います。

※東陽病院の休日当番日
9月15日(祝)・26日(日)　午前9時～午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎(84)1335

## 税のプロムナード

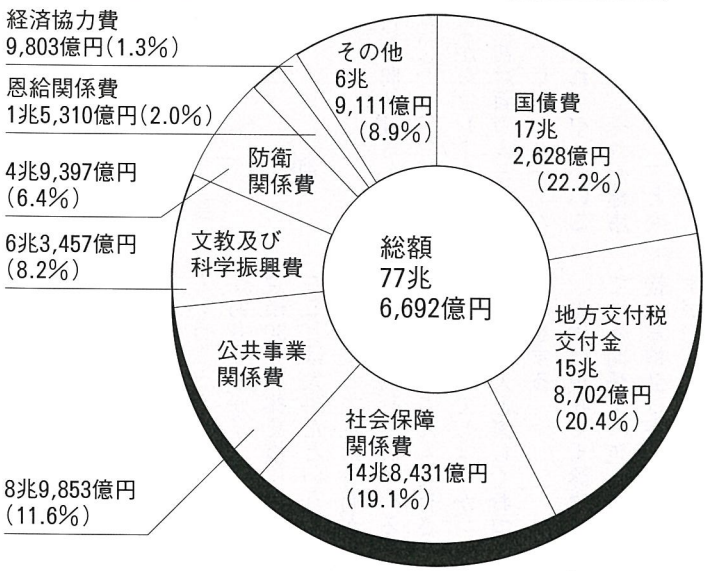
## 税金の役割と使いみち

税金は私たちが快適でゆとりのある生活を営むための礎（いしずえ）です。

私たちの国は、高齢化や国際化が進むこれからの社会の変化を見通して、社会保障の充実や社会資本の整備、国際協力の推進など、多くの仕事を手がけています。そしてその費用は、皆さんの税負担によってまかなわれているのです。

納税者である皆さんは、誰がどれだけ税を負担するかを考えるとともに、その使いみちにも十分に関心をもつことが必要ではないでしょうか。

### 国の総支出（歳出）（平成10年度当初予算）




**納税**　9月30日(木)は、固定資税第3期分、国民健康保険税第3期分の納期です。
納め忘れのないよう　お早めに